

吉本興業株式会社

「笑い」を通して人と地域をつなぎ、心のインフラを創造する



おもてなし経営のポイント

- ❖ 人々を幸せにするためには、まずは自分自身の幸せから
- ❖ 一方的な情報発信から、人と地域をつなげる取り組みへ

経営理念と企業文化

2012年4月に創業100周年を迎えた吉本興業。多くの人気芸人を輩出してきた、言わずと知れたお笑い界の老舗企業である。テレビ番組制作、劇場、芸人養成スクールなどを幅広く手掛けることから「お笑いの総合商社」とも呼ばれる。同社は次の経営理念を有している。「我が社の社員の幸せは、自らが楽しんで生きること、社会に貢献し、人々を幸せにすることである。我が社の社会への責任は、人々や自分自身が笑顔や笑い声をいつも持つようにすることである」。人々を「笑い」によって幸せにするためには、まずは自分自身が幸せでなければならないと社員に伝え続けている。かつて、戦争で劇場や所属芸人を失った。戦後は映画の製作と上映に活路を見出したが、やがてテレビの普及とともに、映画業態の衰退を見据えて演劇部門を再開させた。

こうして、劇場からテレビへと「情報発信の媒介」が変化したように、現在では、マスメディアから個人発信へと「情報発信の質」が変化している。その中で同社は、テレビから一方的に発信する笑いではなく、地域と地域のつながりを感じながら、笑いを直接伝えていきたいと考えている。具体的には、若手芸人による地域発信型活動「あなたの街に『住みます』プロジェクト」、地域で落語や漫才などの演芸を実施する「@ほーむ寄席」、47都道府県の名産物を年中、紹介する「よしもと47ご当地市場」などが挙げられる。中でも、「あなたの街に『住みます』プロジェクト」は、47組の芸人が47都道府県に実際に住みながら地域を盛り上げていく活動で、所属芸人や社員が地域の人々と力を合わせてさまざまな問題に取り組んでいる。また、「@ほーむ寄席」は、今まで劇場に足を運んでくられていた顧客の地元や生活圏に出向

き、日常で落語や漫才などを楽しんでもらおうとする取り組みである。

このように同社では、一方的な情報発信ではなく、地域と連携し、笑いを通じて、日本型の新しいつながりの社会、心のインフラを構築していくことを目指している。

講演者紹介



株式会社よしもと
クリエイティブ・
エージェンシー
吉本お笑い総合
研究所 理事

中井 秀範氏

富山県生まれ。大学卒業後、1981年に吉本興業入社、桂三枝（現・六代目桂文枝）、明石家さんま、ダウンタウンらのマネージャーを歴任。その後は吉本新喜劇プロジェクト、吉本総合芸能学院（NSC）の開設に携わり、よしもとファンダンゴ（旧ファンダンゴ）代表取締役社長、吉本音楽出版代表取締役社長等を歴任。タレントマネジメントに留まらず、企画・制作やコンテンツ配信等の様々な事業を手がけ、「笑いの発信」によるビジネスモデル構築を図っている。

会社概要

- ・法人名：吉本興業株式会社
- ・代表者：吉野 伊佐男 代表取締役会長
- ・所在地：大阪府大阪市中央区難波千日前11-6
- ・設立年月：1912年4月創業
- ・ホームページ：<http://www.yoshimoto.co.jp/>
- ・事業内容：TV・ラジオ、ビデオ、CM、そのほか映像ソフトの企画、制作および販売。劇場運営、イベント事業、広告事業、不動産事業、ショウビジネス、そのほか商業施設の開発、運営
- ・社員数：正規1,086名、所属タレント約800名